

スクーリング科目案内

《科目名》

子供の言語習得と人格形成分野

《子供の発達と教育》

理論編 子供の発達段階とその特徴について学ぶ。

実践編 実際に起こっているクラス内の問題の対応方法を理論をもとに考える。

《バイリンガル教育》

バイリンガルとは何か。バイリンガルの分類とバイリンガル教育と外国語教育の違い、バイリンガル教育の種類について学ぶ。

言語の基礎知識分野

《教授法の基礎知識》

教授法とは何か。代表的な外国語教授法（文法翻訳法、直説法、オーディオ・リンガル法、コミュニカティブ・アプローチ法、TPR など）についてその特徴を学ぶ。

《音声学》

前半の2時間では、語レベルの発音、アクセントの基礎知識を学び、自らの発音やアクセントに気づきを持たせ、正しい発音やアクセントの習得を促す。後半2時間ではイントネーション、プロミネンスについて同様に学ぶ。

《文の書き方》

作文の書き方を学ぶ。文章の構成、書き言葉について、記号の適切な使い方、原稿用紙の使い方などを中心に作文の書き方を学び、受講生自身がきちんとした作文が書けるようにする。また、講座講師とのメールのやりとりにおいてよく使われるメールの基本的な書き方を学ぶ。

言語と文化分野

《スペイン語と日本語》

日本語の基本構造について学び、スペイン語と大きくちがう点を対照する。

《異文化コミュニケーション》

普段自分が常識だと思っていることが、他の人にとってそうではない場合がある。文化のちがいを認識することを学び、文化背景の異なる人々と相互理解が深められるように意識をもつ。

《言語と文化》

自分の文化を認識すると、他の文化がわかってくる。日本語教育においては言語を伝えるだけでなく、文化を伝えることが必要だということの動機づけをする授業。

日本語授業の研究分野

《年間授業の計画》

アルゼンチンのよくある日本語コースについて例をとり年間スケジュールの作成の仕方を学ぶ。

《授業の流れと方法（年少者対象）》

子供の特徴から、年少者の授業を考えるときの注意点、教師の心構えなどを考える。上記のことをふまえ、年少者のための授業の流れと具体的な方法を学ぶ。後半は『日本語ドレミ』のある課についての授業例をみる。

《授業の流れと方法（成人対象）》

全体の学習活動の流れを学ぶ。導入、基本練習、応用練習、確認、それぞれの目的、種類、方法を学ぶ。また『みんなの日本語』ではどのように練習問題が扱われているか見て、練習の仕方や広げ方を考えていく。

《学習の評価》

評価の方法、テストの目的、種類を学ぶ。また、通信講座の課題で『みんなの日本語 I』のある課についてテスト作成し、その作成したテストについての問題点について考え、テス

ト作成上の注意点を学ぶ。

《音声指導法》

スペイン語話者にとってむずかしい発音の指導法を考える。また、拍、アクセント、イントネーションについてプロソディーグラフを使った指導法やシャドーイン具を使った指導法を紹介する。

また、実際に自分の会話を録音し、問題点を話し合い、自分の問題点を認識する。そして、指導法を考える。

《文字表記指導法》

ひらがな、カタカナ、漢字についての基礎知識や表記上の注意点を学ぶ。また、連想法やストーリーで意味を覚える方法など、導入法や指導法を紹介する。

《語彙指導法》

語彙の導入はいつ、どのようにすればよいのか。色々な指導方法と注意が必要な語彙の具体例を学ぶ。

《聴解指導法》

「わくわく文法リスニング」「みんなの日本語聴解タスク」等を使って、聴解指導の具体的な指導例を示しながら、聴解指導法の基本を学ぶ。

《文法指導法》

『みんなの日本語 I』で提示されている文型について学び、またその指導や注意点などを学ぶ。

1) 助詞のグループ分け 2) 名詞文 3) 疑問文 4) 代動詞 5) 動詞文の文末変化、自動詞他動詞 6) 自動詞文 7) 他動詞文 8、9) その他の動詞文の文型 10) 動詞文と助詞のまとめ 11) 形容詞、12) ほしい、たい 13) 動詞の活用 14) て形 15) 形容詞の活用と名詞文の変化 16) ない形 17) テンス 18、19)～ています 20)「まで」と「までに」「ながら」 21) 普通形 22)～たら、～ても、～と 23)～てあげる、もらう、くれる 24) 名詞修飾節 25)～るとき、～たとき

《教科書分析》

教科書分析の意味、方法論について学び、『みんなの日本語 I』と『ドレミ』を使って、シラバス、提出文型、各課の構成、語彙について分析する。

《教案の書き方》

略案、細案の書き方について学び、ある文型の指導例について実際に教案を書く練習をする。

《『みんなの日本語 I』の教え方》

第1課を始める前の準備課について学ぶ。また各課の語彙の導入に際しての注意点、練習B、会話指導上の注意点などを学ぶ。

《『ドレミ』の教え方》

『ドレミ』のある課を取り上げて、指導例を紹介する。

《教え方を考える》

いくつかの重要な文型について、導入、練習方法などをクラス全体で話し合いながらひとつのアイデアにまとめていく作業をする。講師主導ではなく、受講生主導でいろいろな意見を出し合いながら、授業案をよりよいものにして活動。

日本文化分野

《日本文化》

書道、生け花、風呂敷、子供の絵本作りなどについて学び、体験する。

《日本事情》

食事情、ごみ事情、携帯電話、たばこなど日本の現状について学ぶ。

移住と日本語教育

《亜国日本語教育の歴史》

アルゼンチンの日本語教育史についての概略を学ぶ。

《日本語学校と教師のあり方》

アルゼンチンの日本語学校の現状と教師としての心構えについて学ぶ。

《日系移民史》

海外日系人協会の紙芝居を使って日系移民の歴史の概略を学ぶ。

実習

《模擬授業》

成人対象クラスおよび年少者対象クラスについて、それぞれ 20 分程度の模擬授業をする。

教案作成→教案指導→教具等の準備→模擬授業→評価

他の受講生の授業も見学をしたり、生徒役になったりしてお互いの授業を評価しあう。

《日本語学校での実習》

日本語学校での実習を行う。(成人クラス、年少者クラスでそれぞれ 45 分程度の授業を行う。)

授業見学→課題をもらう→教案作成→教案指導→実習→評価

実習をするクラスの見学をして、そのクラスの様子を把握するとともに、担当の先生より実習をするときに教える文型について打合せをする。その後教案を作成し、養成講座の実習担当講師より指導を受ける。教案を練り直した後、実習に望む。評価を受ける。